

注意点1

左手

人差し指を大きく振って
ルート音をハッキリ発音せよ

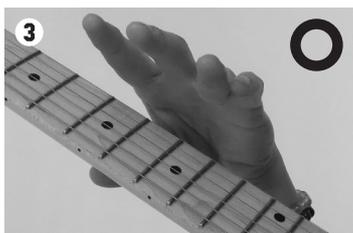
このメイン・フレーズは両手タッピングによるコード・プレイで、左手がパワー・コード、右手が3rd音や5th音、9th音を担当する。このようなコード・プレイでは、まずルート音をしっかりと発音することが大切なので、ルート音を担当する左手人差し指の使い方に注意が必要だ。基本的に人差し指は高く振り上げて弦をしっかりと叩くようにしよう(写真①~④)。実際には、手の動きが多少暴れているぐらいでちょうど良い。通常のテクニカル系プレイでは左手が暴れてしまうと無駄な動きが多くなってしまいが、このフレーズではルート音を的確に発音することがポイントになるので問題ないだろう。弾き慣れるまでは、鏡の前で練習【註】し、自分のフォームを確認してみても良い。



このように人差し指の振りが小さいと……



ルート音をハッキリ発音できない。



人差し指は大きく振りかぶって……



弦を力強く叩くべし！ ルート音をハッキリ出そう。

注意点2

右手

タッピング攻略のカギは
右手首の角度にあり！

このメイン・フレーズの両手タッピングでは、パワー・コードを担当する左手は常に一定のフォームになる。しかし、そのほかのコード音を鳴らす右手は、場所によってフォームが変化するので気をつけよう。1&2小節目の4&2弦16フレットのように異弦同フレットをタッピングする時には手首を真っ直ぐにするが(写真⑤)、3小節目の2弦19フレット&4弦18フレットのように異なるフレットをタッピングする際には手首や腕の角度を調節しよう(写真⑥)。1&2小節目と同様に3小節目も手首を真っ直ぐのままタッピングを行なうと、指先を無理に曲げることになるので発音が弱くなる(写真⑦)。タッピングでは、指先はもちろんのこと、手首の角度にも注意しよう！



手首を真っ直ぐにして、4&2弦16fをタッピングする。



手首をネック側に曲げることで、的確にプレイできる。



手首を曲げないと、均等にタッピングできない。

~コラム26~

教官の戯れ言

数多くのインスト作を発表しているサトリアーニは、高速レガートをはじめ非常にテクニカルな側面が強いが、同時にフレーズに歌心があって表現力もとても豊かなギタリストだ。新しいテクニックを取り入れるセンスも抜群で、タッピングやアーミング、ハーモニクスを駆使してオリジナリティ溢れるサウンドを生み出している。また、彼はアーティストでありながらも、ギター先生としてスティーヴ・ヴァイやカーク・ハメットなど数多くのギタリストを育て上げてきた。著者自身も同じようにギター先生をしている身なので、そんな彼を大きくリスペクトしているのだ。

著者・小林信一、かく語りき
ジョー・サトリアーニ編



ジョー・サトリアーニ
「サーフィン・ウィズ・ジ・エイリアン」

1987年にリリースした2ndアルバム。テクニカル&トリッキーな超絶プレイを土台にしながらも、全体的にキャッチーなメロディを聴かせる。



ジョー・サトリアーニ
「クリスタル・プラネット」

サトリアーニの真骨頂である疾走感溢れるサウンドと表現力豊かなギター・プレイが全開の秀作。楽曲も非常に多岐だ。

【鏡の前で練習】鏡に自分のプレイを映すことで、フィンガリングやピッキングの無駄な動きを確認できる。最近では映像も簡単に撮影できるので、自分のプレイを録画して動画でフォームを確認してみるのもオススメだ。